

名古屋市：再開発地区で実現する脱炭素コンパクトシティモデル

脱炭素先行地域の対象： **みなとアクルス（同市港区東邦ガス港明工場跡地再開発）**

主なエネルギー需要家： I期開発エリア6施設（ららぽーと名古屋みなとアクルス、邦和スポーツランド等）、II期開発エリア9施設（想定）

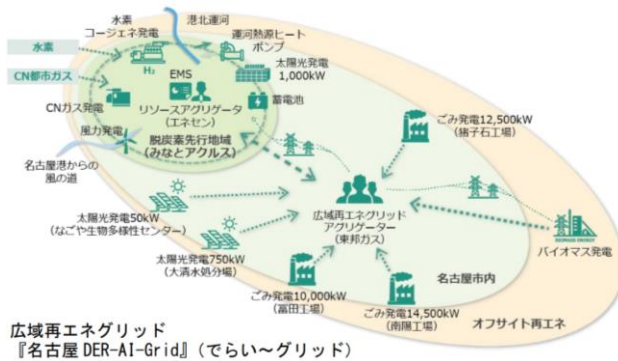
共同提案者： 東邦ガス株式会社、三井不動産レジデンシャル株式会社

取組の全体像

工場跡地の大規模再開発地区であり市の「低炭素モデル地区」となっている「みなとアクルス（商業、スポーツ施設、学習施設、集合住宅等）」において、**太陽光・小型風力発電・CNな都市ガス発電・蓄電池等を導入**するとともに、市所有の**既存太陽光発電及びごみ発電の余剰電力を供給**することにより脱炭素化を図る。また、再エネ設置スペースの確保が困難な都市部の再エネ自給率を高めるため、同地区において水素を製造し、水素とCNな都市ガスを燃料とするコージェネ(CGS)、ボイラー、家庭用燃料電池を導入するとともに、FCVへ水素供給等も行う。

1. 民生部門電力の脱炭素化に関する主な取組

- ① みなとアクルスにおいて太陽光発電設備(650kW以上)と風力発電(5kW)を追加導入するとともに、名古屋市内のごみ焼却工場等の再エネ電源(5カ所合計16,700kW)を集約し、脱炭素先行地域に供給
- ② **東邦ガスがアグリゲーターとして市内外の分散型リソースを束ねて再エネ調達**を実施し、最大限活用した「**太陽光発電とごみ発電を核とする広域再エネグリッド**」を構築
- ③ 地域内ではリソースアグリゲーターとしてEMSによるAI制御を実施、**太陽光発電、大型蓄電池、CNガス発電、水素発電、風力発電が協調してオフサイトとの連携**を図る



2. 民生部門電力以外の脱炭素化に関する主な取組

- ① 水素とCNな都市ガスを燃料とするCGSを核に、集合住宅全戸に家庭用燃料電池を採用、FCVへの水素利用、未利用エネルギーである運河水の熱利用、CGSと燃料電池の排熱利用を実施
- ② 水素燃料電池、水素専焼・混焼CGSやボイラーを導入、排熱を活用
- ③ 需要家建物のZEB・ZEHを促進するとともに、カーシェアリングのFCV/EVを活用したV2G、V2Hを実装し、エネルギーの多様化を推進

3. 取組により期待される主な効果

- ① S+3Eの実現に向け、災害時はエリア内の自営インフラ網とCNガスCGS（中圧ガス）、太陽光発電、大型蓄電池により電力と熱を供給し**地域防災にも貢献**
- ② 電力ピーク時には、スマホなどを通して地域内の住民や来訪者に下げDRを要請し、スポーツ施設やイベント等の活動へ誘導し、集合住宅の電力デマンドを削減する。パブリックスペースや歩行者空間を充実させ、ウォーキング・ランニングコースを整備し、**ウォーカブルなまちにより健康生活を実現**

4. 主な取組のスケジュール

